

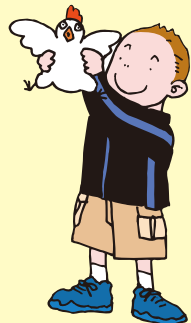
*ジーン・ヴァイスさんは、アメリカウィスコンシン州シダーズバーグにお住まいです。
Original Title: "Entertainment Elephant" by Gene Veith. From the May 2006 Focus on the Family magazine.
Copyright© 2006, Gene Veith. All rights reserved. International copyright secured. Used by permission.

性的な映像に対する求めがより露骨、かつ病的になります。もう一つの問題点は、「楽しませて！ 気晴らしをさせて！ 私の注意を引いて！」という娯楽依存心理が、生活の他の領域にも影響することです。メディアの専門家ニール・ポストマン氏は、著書「娯楽の行きつく所」(“Amusing Ourselves to Death”邦訳なし)の中で、この考え方がニュースや、政治、教育、ひいては宗教までもねじ曲げていると言います。

ジャーナリズムにおいては、単なる事実や情報だけでは、新聞を売ったり視聴者を引きつけることはできません。ジャーナリストは、私たちを楽しませなければと思っているのが、有名なゴシップ、センセーショナルな犯罪、またはささいなことを大げさに扱った記事を、深刻な報道記事の中に混ぜ込ませ、時にはそれに取って代わらせます。冷静な分析や思慮深い議論ではなく、誇大報道が幅をきかせます。教育現場でも、多くの場合、教師が始めから生徒に気にいられようと考えているのです。ポストマン氏はまた、教会

きるとすぐにテレビをつけ、寝るまでつけっぱなし。食べるときも、家事をするときも、友だちが来たときも、テレビがBGM代わりになっていきます。仕事場でも教会でも、楽しいことがないと集中力を保てません。皮肉なことに、娯楽が日々のくらしの何気ない楽しみをわきに押しやった結果、かえって退屈になり幸せを感じられなくなってしまう。

娯楽は適度に楽しめば、神さ



でさえ人々のそのような求めに応じようとしており、人々が必要としているものではなく、「好まれるもの」を与えようとし、理解しにくい教理を教えたりきびしい霊的な訓練をさせることを重要視しなくなっていると指摘します。

に比べ、読書は想像力を豊かにし、自分で筋道を立てて考える力をつけ、緊張感を維持させる効果があります。

ほかに、楽しませてくれるだけでなく、ためになる質の良い音楽、書物、またドラマを選ぶこともできます。聖書を引用するなら、「すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい」(ピリピ人への手紙4章8節)ということ。

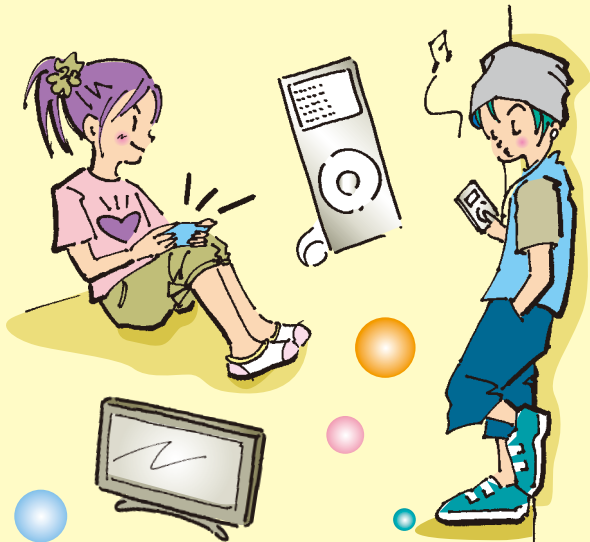
これは、今の娯楽文化の犠牲になっている若者たちの口から出てくることがらとは、似ても似つかないものです。聖書が言うこれらの勧めは、クリスチャンにとって、あらゆる真実なこと、美しいもの、またよいものを味わえる世界を開いてくれます。

良い作品は、単に時間つぶし以上の喜びを与えます。流行のポピュラー音楽だけでなく、モーツァルト、バッハなどのクラッ



ごらくみなお
娯楽を見直す

ごらくみなお
娯楽を見直す



ジーン・ヴァイス

「ママ、ぼくタイクツ！」
十二才の子が部屋から叫ぶので、お母さんが行ってみると、DVDやパソコンをまたがなければ部屋にも入れません。息子は、ベッドの上に座って耳にはアイポッドのイヤフォンを差し込み、ビデオゲームをしています。

多くの子どもたちは、いつも何か楽しいことを求めている、学校にまで同じことを期待します。実は大人も似たような問題を抱えています。

私たちの社会は娯楽づけになっています。いつでも何かの娯楽に接してたいのです。朝

きるとすぐにテレビをつけ、寝るまでつけっぱなし。食べるときも、家事をするときも、友だちが来たときも、テレビがBGM代わりになっていきます。仕事場でも教会でも、楽しいことがないと集中力を保てません。皮肉なことに、娯楽が日々のくらしの何気ない楽しみをわきに押しやった結果、かえって退屈になり幸せを感じられなくなってしまう。

娯楽は適度に楽しめば、神さ

また、私たちは、芸術は神が与えてくださったものであることを知っています(出エジプト35章31-33節)。ほとんどの娯楽には芸術的なものを見たり味わったりする喜びがありますが、これも神の贈り物です。私たちは神の造られたものに喜びを見いだせるように創られているのです。伝道者の書は、「実に神はすべての人間に富と財宝を与え、これを楽しむことを許し、自分の受ける分を受け、自分の労苦を喜ぶようにされた。これこそが神の賜物である」と言います(5章19節)。

結婚やある種の食べ物否定し

た禁欲主義者たちに対して、使徒パウロは「神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべき物は何一つありません」(第一テモテ4章4節)と言いました。

しかし、パウロは「神よりも快楽を愛する者」(第二テモテ3章4節)にも警告します。箴言は、怠けることと快楽を愛することの愚かさを語ります(13章4節、20章4節、21章17節)。これがしばしば「娯楽」の核心部分にあるのです。

何が危険なのか？
娯楽が多すぎると刺激が多くて、かえって楽しくなくなる。それでも私たちは楽しみを求め。そう言うわけで、皮肉なことに娯楽が多すぎるとかえって退屈するのです。

このような状態は、道徳的に問題です。私たちの注意を引き、楽しい気分にし、気晴らしをさせるものの中には罪の誘惑があります。多くの娯楽産業が、性や暴力などの悪をばらまいています。消費者がそういうものの刺激にマヒして、退屈すると、暴力への欲求のたがははずれ、